新しい社会言語学の入門書

社会言語学の枠組み

11 月 25 日 発売予定

井上史雄・田邊和子[編著]

堀江薫/渋谷勝己/塩田雄大/山下早代子/ 笹原宏之/小野寺典子/泉子・K・メイナード [著]

A5 判並製/224 頁 2,420 円 (本体 2,200 円+税 10%)

—— 第**3**章 —

言語間の格差

渋谷勝己

この章のポイント

この章からは、社会言語学の柱のひとつであることばの多様性と変異の 問題を取り上げる。言語であれ変種であれ、どの言語共同体にも「こと ばの多様性」が存在する。そしてその言語や変種の間には「社会のな 差」があり、その共同体に「言語問題」をもたらしている。本章では、 社会言語学という研究分野の基盤にあるこれものキー概念を導入する。

各章末尾に「推薦図書」を掲載

各章の末尾に、授業中のディスカッションのトピックや授業後の課題にできる 「調査の課題」を掲載 各章冒頭に、その章で扱う内容が簡単にまとめ られた「この章のポイント 掲載

トラッドギル、ピーター (著) 土田滋 (訳) (1975). 言語と社会. 岩波新書

ユネスコ危機言語関係ウェブサイト http://www.unesco.org/languages-atlas/ (2021.5.12 最終アクセス)

■推薦図書 -

クルマス, フロリアン (著) 山下公子 (訳)(1987). 言語と国家一言語計画ならびに言語政策の研 空一 岩油車店

主に国家内の言語間格差と言語問題への対応のあり方を探る。 井上史雄(2001). 日本語は生き残れるか一経済言語学の視点から一. PHP 新書

英語と日本語のせめざあいを事例として言語関格差と言語問題を考える。 毎田信治(編)(2006). 社会言語学の展望、くろしお出版. ことばの多様性とその社会的格差、言語問題を、発展的に考察する。

調査の課題

- 小なさんが興味をもっている国をひとつ選び、その国ではどのような歴史的経緯のもとでどのような言語が国語もしくは公用語として採用されているか、調べてみよう。
- ② さまざまな文献やインターネットで「エスペラント」や「ラザロ・ルドヴィコ・ザメンホフ」のことを調べ、ザメンホフはなぜエスペラントを作ることを考えたのか、そのことばをどのようにして作り上げたのか、それをどのような方法で広めようとしたのか、などを、整理してみよう。

【目次】

第1章

社会言語学の枠組み 動向と展望 井上史雄

第2章

言語と社会の規定関係

堀江 薫

第3章

言語間の格差 渋谷勝己 第4章 標準語と方言 塩田雄大

第5章 ことばの性差 山下早代子

第6章

集団語

井上史雄・田邊和子

第7章 敬語と社会 井上史雄 第8章

日本語の文字 変異・政策・景観 笹原宏之

第9章

談話の規則性

小野寺典子

第10章

談話と言語のバリエーション その規則性と創造性 泉子・K・メイナード

この 1 冊で社会言語学が扱う内容の全体像がわかる! ⇒大学 1, 2 年生のテキストに最適!(自習も可)